

# 経済為替ニュース

SUMITOMO MITSUI TRUST BANK, LIMITED FX NEWS

第2127号 2012年08月20日(月曜日)

## 《 uphill battle ? 》

今週は二つのマーケット戦線で、「勝利できるかも知れないが難しい戦い(uphill battle)が待ち構えている」週だ。一つは世界的に株価が今以上に上がることが出来るかの戦いであり、もう一つは実効為替レートで7月の初め以来の安値になってきた円の為替レートが今以上に「円安」に進むことが出来るのかどうか、である。

世界的に株価は上値を追っている。日経平均も先週末は9000円の大台で続伸したが、もっと目立って上げているのはニューヨークの株価だ。ダウ工業株30種平均の先週末の終値は、前日より25.09ドル(+0.19%)高い1万3275.20ドル。これは5月1日以来約3カ月半ぶりの高値であり、今年の最高値まであと4ドルに迫った。またハイテク株が主体のナスダック市場の総合指数は、前日より14.20ポイント(+0.46%)高い3076.59と3日続けて上昇した。終値ベースでは4月上旬以来、約4カ月半ぶりの高値となった。

直接材料とされるのは朝方発表された8月の米消費者景気信頼感指数が予想を上回ったためだが、その根底には「アメリカ経済が改善する」という大きな期待感がある。欧州の政府債務危機への警戒感がドラギ発言で夏の間はひとまず収まっていることも投資家の安心材料になった。

一方外国為替市場では対ドルを含む各国通貨に対して、円が幅広い通貨に対して下落している。日経新聞によると、通貨の実力を示す名目実効為替レート(日経通貨インデックス、2008年=100)で円は先週末に129.4まで低下した。これは7月6日以来約1カ月半ぶりの安値だという。「欧州債務問題や米景気への過度な悲観的見方が後退。安全な資産とされ、資金の一時的な逃避先であった円を売る動きが強まった」というのが日経の解説である。

日経通貨インデックスで動きをトレースすると、円は今年7月25日に直近高値の132.8を付けて以来、じりじりと低下している。17日のニューヨーク市場で円は対ドルで一時1ドル=79円台半ばと約1カ月ぶり安値を更新。対ユーロでも1ユーロ=98円台前半を付けた。円はカナダドルやスイスフラン、オーストラリアドルなどに対しても下落した。

これまで円が各国通貨に対して基調強かったのは、「世界の中での避難通貨」の立ち位置

が大きかった。ヨーロッパでは債務危機の先行き、さらに言えばユーロの先行きに対する危機感が強く域内では南から北への資本の動きが顕著だったが、その一部は円やドルにまで流れてきた。それがドル高・円高を演出した。そのドルが円に対しても徐々に値を上げている、というのが現状。それは「アメリカ経済の先行きも先月の雇用統計をきっかけに全般的に良くなっている」ことが挙げられる。一部には「80円台回復」の期待も高まっている。

### 《 not so confident on world economy 》

今週はアメリカ経済に関するいくつかの重要な経済指標が発表され、また株価も史上最高値（2007年10月09日の14164.53ドル）にあと1000ドル以内に接近する中で、「この高値を更に伸ばせるか」が市場の関心事。景気に関する良い指標が増えれば増えるほど、9月のFOMCでの「追加金融緩和」に対する期待は低下するはずだが、その辺を今の市場がどの程度織り込んでいるのかがポイントである。

筆者は今の相場に関して、「実績相場というよりは、新たな緩和という期待を込めた金融相場」との見方なので、その持続性に関してはやや疑問がある。雇用統計を含めて今のアメリカ経済が本当に今の長期金利の上昇を「良い金利上昇」と判断し続けるかどうかに関しては自信が持てないでいる。その辺は今週出てくるいくつかのアメリカ経済に関する指標などで判断できる面があるだろうが、もっと確かめたいのは9月の頭に出る8月分の雇用統計だろう。

-----

ヨーロッパの債務危機に関する直近のニュースで筆者が注目したのは

「ドイツ週刊誌シュピーゲル（電子版）は19日、欧州中央銀行（ECB）がスペインなど債務危機に陥ったユーロ圏諸国の国債利回りに目標水準を設定し、この水準を下回るまで流通市場で国債を買い上げることが検討していると報じた。ECBは次回9月6日に開く定例理事会で、目標設定の是非を決定するという。

同誌によると、ECB内で検討されているのは、各国の国債利回りドイツ国債利回りの格差について目標を設定、公表する方法。この格差が目標に収まるようECBは随時、国債を買い上げる。また、これに伴い、ECBが実施した国債買い上げについて、直後に買い上げ額や、どの国の国債を買い上げたかを公表する方針という。」（Yahoo News）

というニュースだ。一つの考え方だと思う。しかし、問題はこれが市場の期待の一部には応えるものではあるが、危機全体に対する処方箋になっていないわけではない、という点だ。あくまで危機に直面する欧州諸国が「市場に狙われない」だけの水準に経済のファンダメンタルズを整える、整えつつあると期待できるまでに実際に政策を進めることが必要だが、報じられているECBの措置は、それに向かって対症療法である。

-----

今週の主な予定は以下の通り。

8月20日(月)	7月コンビニエンスストア売上高 米7月シカゴ連銀全米活動指数 休場/インド、シンガポール
8月21日(火)	6月全産業活動指数 ロックハート米アトランタ連銀総裁が講演
8月22日(水)	7月貿易統計 7月チェーンストア売上高 米7月中古住宅販売件数 米FOMC議事録(7月31日・8月1日開催分)
8月23日(木)	ユーロ圏8月PMI(購買担当者指数) 米新規失業保険申請件数 米7月FHFA住宅価格指数 米7月新築住宅販売件数
8月24日(金)	サマラス・ギリシャ首相がメルケル独首相と会談 米7月耐久財受注

### 《 have a nice week 》

週末はいかがでしたか。先週はお盆の時期でしたが、それもあってか都内の空いていたこと。店は閉まっているし、道路はガラガラでした。今週はかなり平常に戻る。それにしても、まだまだ暑かった。平気で35度を超える暑さになるのが脅威でした。まだ続きそうで、皆様には体調管理にお気をつけ下さい。

正直なところ、先週の月曜日に終わったオリンピックは寝不足になるほど結構魅了されて(日本が数多くのメダルを取ったこともあって)、それは良いのですが「ちょっと疲れた。早く終わってくれないか」と思ったものですが、実際に終わってしまうとやはりちょっと寂しかった。ま、「4年に一度の祭典」くらいがちょうど良い。そういう意味ではよく考えられている。それにしても、日本は女子のレスリングで3連覇が二人も出た。これは凄いことでしょう。

今日20日にメダリスト達が銀座の中央通りをパレードですか。各国で結構やっているが、やはり数が多いと見応えがあるのでは。なでしこなど数が多いので、38個のメダルですが、メダル保持者は80人弱。壮観でしょうね。残念ながら私は所要で行けません。

それでは皆様には良い一週間を。

《当「ニュース」は三井住友トラスト基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、三井住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したのですが、正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。》

せん。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》